

NEWS CLIP & AV MATERIAL

◎ ニュースクリップ&映像教材



■ 「平成22年度第14回視聴覚教育総合全国大会・第61回放送教育研究会全国大会合同大会（東京大会）」開催される

さる8月9・10日の両日、標記全国大会が、国立オリンピック記念青少年総合センターで開催され、2日間で延べ1,264名の参加者を迎え、盛会のうちに終了した。

NEWS CLIP

AV情報

TEL 0422-34-3802（受付時間平日10:00～17:00）

■ 第1回国際科学映像祭

良質な科学映像コンテンツを広く紹介し、あわせてコンテンツや技術開発に関わる人々の情報交換及び科学映像クリエイターの発表の場として、第1回国際科学映像祭実行委員会主催により、標記映像祭が開催される。

〈日時〉平成22年9月11日（土）～10月11日（月・祝）の31日間。ただし、会場によって、日程が異なる場合がある。

〈場所〉関東一円、科学館・プラネタリウム館など31施設

〈料金〉各会場の入館料

〈内容〉科学映像上映、スタンプラリー、サイエンスフィルムカフェ2010—科学映像がおもしろい—、ドームフェスタ、3Dフェスタ等。詳細は、下記を参照のこと。

<http://image.sci-fest.net/index.html>

〈問い合わせ先〉自然科学研究機構 国立天文台
天文情報センター内国際科学映像祭実行委員会事務局

研究会情報

■ 日本教育工学会第26回全国大会

日本教育工学会では、標記全国大会を開催する。
〈日時〉平成22年9月18日（土）～20日（月）
受付は、各日9:00から、18日17:00、19日16:00、20日15:00まで。

〈会場〉金城学院大学（名古屋市守山区大森2-1723）

〈内容〉シンポジウム「高等教育の質保証—教育工学の関わり—」「教科におけるICT活用：教科教育学と教育工学との協働の可能性」「教育工学を問い直す—教育工学はどうあるべきか—」、課題研究「初等中等教育におけるICT活用」「eポートフォリオの持続的活用と普及」他、ワークショップ等。詳細は、下記を参照のこと。

<http://www.jset.gr.jp/taikai26/>

〈問い合わせ〉日本教育工学会大会企画委員会
Mail taikai2010@jset.gr.jp
TEL 03-5740-9505

トピックス

○文部科学省共催「ICTの教育活用を推進する実践研究」事業ブロック別発表会日程決まる

既報の通り、(財)日本視聴覚教育協会、日本視聴覚教具連合会、学識経験者が連携して設立した「教育ICT活用普及促進協議会」では、全国7ブロックにおいて、電子黒板やデジタルテレビ等のICT機器・教材を、教育に活用した実践研究発表会を開催する。このほど、各ブロック別発表会の日程が下記のとおり決まった。

この実践研究発表会は、平成21年度に文部科学省が実施した「電子黒板を活用した教育に関する調査研究事業」及び「デジタルテレビ等を活用した先端的教育・学習に関する調査研究事業」の調査研究校が中心になって、研究成果を交流することで、近隣地域や学校に活用方法を広く普及し、より一層のICTの教育活用の普及・促進を図

ることを目的としている。

参加対象は、両調査研究事業の対象校教員、小学校、中学校、高等学校、大学教職員、教育委員会職員等となっている。参加費は無料。発表会のプログラムは、○公開授業または模擬授業、○調査研究対象校による研究協議、○有識者（企画委員）による講義、○教材・機材研究コーナーなどが行われる。

この事業では有識者による企画委員会（主査・中川一史放送大学ICT活用・遠隔教育センター教授）を組織し、それぞれの企画委員がブロックを担当し指導・助言を行っていく。また、実践研究のまとめとして平成23年2月に文部科学省において成果報告会を実施する予定である。

〈参加申込み〉 <http://www.chidigi.jp/>

〈問い合わせ〉 日本視聴覚教育協会

TEL 03-3591-2186

「教育ICT活用実践研究—ブロック別発表会—」

ブロック	開催日	開催場所
北海道・東北	平成23年1月21日（金）	仙台市立愛子小学校
関東甲信越	平成22年11月5日（金）	横浜市立茅ヶ崎小学校
東海北陸	〃 11月24日（水）	愛知県岡崎市立葵中学校
関西	〃 12月1日（水）	堺市立深井西小学校（公開授業） 堺市教育文化センター ソフィア・堺（全体会）
中国	〃 12月3日（金）	米子コンベンションセンター（鳥取県）
四国	〃 11月22日（月）	イオンモール高知（高知県）
九州・沖縄	〃 10月7日（木）	福岡県北九州市立門司海青小学校

コンクール情報

■平成22年度[第14回]文化庁メディア芸術祭作品募集

メディア芸術の創造とその発展を図ることを目的に、文化庁メディア芸術祭実行委員会（文化庁他）は、標記芸術祭開催にあたり、各部門における作品を募集している。

〈募集期間〉 平成22年9月24日（金）必着。

〈募集部門〉 ○アート部門 ○エンターテインメント部門 ○アニメーション部門 ○マンガ部門

〈応募条件〉 平成21年9月26日から平成22年9月24日までの間に完成、または完成作品として発表された作品が対象。プロ、アマチュアを問わ

ない。自主制作作品、商業目的作品も問わず応募可能。各部門とも作品のテーマや内容、手法は自由。他のコンテストに応募、もしくは受賞した作品も応募可能。応募作品数の制限はないが、同一作品を複数の部門に重複して応募することはできない。マンガ部門は連載中の作品も応募可能。詳細は、下記を参照のこと。

<http://plaza.bunka.go.jp/festival/about/>

〈各賞・贈呈式〉 部門ごとに、大賞（文部科学大臣賞）1作品、優秀賞4作品、奨励賞1作品を選定。各賞に、賞状、トロフィー、副賞を贈呈。受賞発表は、平成22年12月上旬を予定。平成23年2月1日（火）贈呈式。受賞作品展は、平成23年2月2日（水）～13日（日）国立新美術館（東京都港区六本木7-22-2）において開催予定。

▶ブックレビュー



「詳解著作権法 第4版」

作花文雄著
ぎょうせい発行
2010年4月発行 909頁
6,600円（税込み）

学生にも、教育関係者にも薦める著作権法に関する第一級の解説書である。厚い本なので、多くの人は、尻込みをしてしまうが、具体的な課題を抱えている人には極めて明瞭にわかりやすく解説が加えられている。今回の第4版は、今、話題になっているグーグルの検索エンジンの問題やフェアユースの導入問題などについてもかなり踏み込んだ記述もあり、解説書を超えた筆者の想いが伝わってくる読み物としての魅力もある。

また、平成21（2009）年の法改正に関する解説も面白い。新たに公共図書館の役割として付加さ

れたことについても触れている。例えば、情報の音声化についてディスレクシア（識字障害、読字障害等）などの発達障害の在る者も含まれることの原因として、書籍などの情報化（DAISY化）から解説されている。さらに、リアルタイム字幕の自動公衆送信、国立国会図書館におけるインターネット資料の保存など視聴覚教育関係者ばかりでなく、教育関係者にとってどのように教育が変わるのかについてシミュレーションするときの基本知識に関する記載も豊富に含まれている。

しかし、なんといってもⅦ部第8章の「フェアユースをめぐる考察」の記述の的確な解説は際立っている。「fair use」と「fair dealing」の構造が異にしていること。また、米国と日本の司法制度の状況の違いを、米国では「必要に応じて、関係団体等において長期間にわたる協議を踏まえてガイドラインを策定する等の取り組みの成果を基盤として運用されている…」と指摘していることは、今後の視聴覚業界の方向性も示している。

末尾の「主要裁判例索引」も今回さらに充実しているので必見！（常磐大学教授 坂井知志）

〈問い合わせ・作品の送付先〉 文化庁メディア芸術祭事務局CG-ARTS協会内 〒104-0031東京都中央区京橋1-11-2

TEL 03-3535-3501（受付時間平日10:00～18:00 土・日・祝日を除く）

■ 鎌倉市川喜多映画記念館「新・鎌倉映像フェスティバル」作品募集

鎌倉市川喜多映画記念館では、標記フェスティバルの開催にあたり、上映作品の募集をしている。

〈テーマ〉「人」10分以内の映像作品。ドラマ、ドキュメンタリー、アニメーション等、ジャンルは問わない。

〈応募方法〉 提出記録メディアはDVDあるいはminiDVテープに限る。応募用紙に記入の上、作品を添付し送付のこと。応募用紙は、配布チラシまたは、<http://www.kamakura-kawakita.org/>よりダウンロードする。応募作品は原則として、返却しない。また、応募作品は、応募本人が著作権を持つものに限り、既製の音楽や映像、第三者の肖像権および著作権の侵害がない作品であること。著作権に関する手続き等は応募者の責任において処理のこと。入選作品の発表は、ホームページ上で行う。

〈応募資格〉 個人、団体、市内、県外、一切の制限はなし。出品料は無料。

〈募集期間〉 平成22年10月15日（金）まで。当日消印有効。

〈審査委員長〉 大林宣彦監督

〈賞〉 最優秀賞20万円他。

〈作品上映と講評・授賞式〉 平成23年2月下旬または3月上旬。鎌倉生涯学習センターホール（神奈川県鎌倉市小町1-10-5）において。

〈作品送付先および問い合わせ先〉 新・鎌倉映像フェスティバル係 〒102-0082東京都千代田区一番町18

TEL 03-3265-3281（月～金 10:00～12:00、13:00～18:00）

■ (財)パナソニック教育財団「こころを育む活動」募集

(財)パナソニック教育財団では、未来を担う子どもたちの「こころを育む活動」事例を募集している。

〈応募できる活動〉 団体または個人が行う子どもたちの「こころを育む活動」で、進める工夫、広げる工夫、続ける工夫のいずれかの工夫が認めら

れること。活動の拠点が日本であること等。
 〈応募手続〉 所定の応募用紙と追加資料や写真。
 応募用紙は、<http://www.kokoro-forum.jp/>よりダウンロードすること。

〈応募締切〉 平成22年9月30日(木) 当日消印有効。

〈表彰〉 団体の部・全国大賞1件 表彰状・楯・賞金100万円、ブロック大賞 全国大賞が選出さ

れたブロックを除き、各ブロックから1件 表彰状・楯・賞金30万円、奨励賞等。個人の部・個人賞、奨励賞 表彰状・記念品。なお、決定通知は、平成22年12月下旬の予定。

〈問い合わせ先〉「こころを育む総合フォーラム全国運動事務局」(財)パナソニック教育財団内
 TEL 03-5521-6100

AV MATERIAL

文部科学省選定作品

■7月選定 〔紙〕紙しばい／〔ビ〕ビデオ／〔D〕DVD
 「じゃがいも へんしーん!」〔紙〕8枚〈幼稚園／幼児・教養〉(株)童心社

「縄文人の家づくり」〔D〕11分〈小学校(高学年)・社会／少年・教養・情操(歴史・伝記)〉東京シネ・ビデオ(株)

「人権のヒント(地域編)―『思い込み』から『思いやり』へ―」〔D〕25分〈少年・青年・成人、地域社会生活(人権)〉東映(株)

「人権のヒント(職場編)―気づきのためのエピソード集」〔D〕22分〈青年・成人、地域社会生活(人権)〉東映(株)

「人権啓発『私の中の差別意識―部落差別問題から考える―』」〔D〕24分〈青年・成人、地域社会生活(人権)〉東映(株)

「もっと減らせる! 交通事故―プロに学ぶ安全運転―」〔D〕23分〈青年・成人、地域社会生活(交通安全・防犯)〉(有)斉藤プロダクション

「インターネットと人権」〔ビ〕22分〈成人、地域社会生活(人権)〉東映(株)

放送番組・Web配信

中学生日記

(土) 19:15~19:45 / NHK教育

翌週(土) 13:00~13:30 / 再放送 NHK教育

中部7県は翌週(土) 10:05~10:35 / 再放送 NHK総合

※都合により番組内容が変更となる場合があります。

■4日 「魔の二学期を乗り越える(1) 止まった時間」

■11日 「魔の二学期を乗り越える(2) こどもの国」

■18日 プレーバック「天然少女 天然ショウコ」(平成16年10月11日放送)

■25日 ぶっちゃけトーク「タイトル未定」

発見! 人間力

※放送曜日・時間は地域によって異なります。

〈放送についての問い合わせ〉

(財)民間放送教育協会 TEL03-6406-2171

■103回 4日「いじめちゃいけない」 (信越放送)

■104回 11日「ペットを捨てるな! 命を守る動物110番」 (朝日放送)

■105回 18日「歌って踊って! 元気3姉妹の敬老ボランティア」 (北日本放送)

■106回 25日「できない子なんていない!―鹿児島発! 子育て革命―」 (南日本放送)

エル・ネット

教育、学習に利用できる400以上の動画コンテンツをインターネットで無料配信中。

(<http://www.elnet.go.jp>)

〈2ch 文部科学省から〉

「学校支援地域本部事業の事例紹介」

平成20年度から開始した「学校支援地域本部事業」は、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを行う、いわば地域が学校の応援団となり、地域全体で学校を支えていく仕組みをつくる取り組み。

全国で実施されている学校支援地域本部の取組の紹介や学校支援地域本部について事業のねらいや効果などを解説している。